

【リス：市全体の確認率 38%】

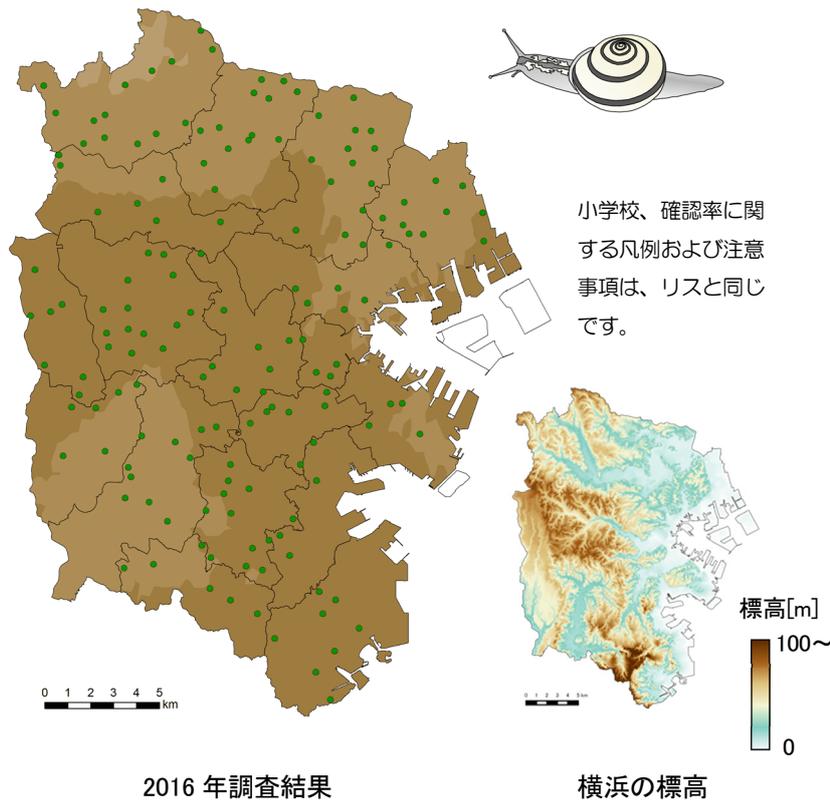
市内で見られるリス（クリハラリス・タイワンリスなどと呼ばれます）は、もともと横浜には生息していなかった外来種で、市南部を中心に生息しています。

学校ごとの確認率は、5～100%と地域によって大きな差がありました。3年前の2013年の調査結果と比較すると、リスの確認率が高い地域が北へ拡大している様子がうかがえました。

市全体の確認率も、3年前の35%より3ポイント上昇し、統計学的にも有意に増加したことが明らかになりました。

リスの分布域は変化の途上と考えられるため、今後も定期的に調査を行います。

注) 色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部の心頭などは解析対象外としました。



【カタツムリ：市全体の確認率 69%】

学校ごとの確認率は39%から90%でした。

確認率の高い地域は市内の丘陵地の分布と一致しているようです。開けた環境に見られる種もいますが、ミスジマイマイ、ヒダリマキマイマイといった大型の種は移動能力も低く、環境の改変に弱いと言えます。丘陵地の分布との一致は湿度、環境の安定性といった条件を反映した結果と考えられます。

近年、姿を見ることが少なくなったとも言われるカタツムリですが、今後の減少が懸念されます。

小学校、確認率に関する凡例および注意事項は、リスと同じです。

（国土地理院 基盤地図情報数値標高モデルから作成）

6 その他

結果の詳細は、横浜市環境科学研究所 Web ページをご覧ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/ikiiki.html>

学校ごとの確認率は観察場所へのアクセスのしやすさなど、さまざまな要因により変動し、必ずしも生き物の生息密度を表すものではありません。調査は長期的な視点での解析・考察が重要であり、来年以降も対象とする生き物の種類を変えながら継続実施する予定です。

お問合せ先
環境創造局環境科学研究所長 中後 博 Tel 045-453-2550